

# 肺癌に対するサルベージ手術の有効性と安全性を検討する多施設共同後ろ向き臨床研究に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成29年12月8日 ～ 平成 31年 8 月 31日

## 〔研究課題〕

肺癌に対するサルベージ手術の有効性と安全性を検討する多施設共同後ろ向き臨床研究

## 〔研究目的〕

この研究の目的は、原発性肺癌に対して化学放射線治療、放射線治療、分子標的治療などの治療を行った後に再発した患者さんで、その再発巣に対して手術を行った患者さんの様々なデータを、全国の主要病院から集積して検討・解析することから、そのような患者さんに対する手術の有効性、安全性を明らかにすることです。

## 〔研究意義〕

原発性肺癌に対して、従来は外科切除の対象とされにくかった化学放射線治療、放射線治療、分子標的治療などの治療を行った後に再発した患者さんに対する手術の状況と成績を大規模に検討・解析したデータが現在存在しないことから、この解析によって、今後そのような治療を行う際の治療方針の根拠が得られるという意義があります。

## 〔対象・研究方法〕

全国から、多施設で、400人の患者さんのデータを集計解析する予定です。本学においては2010年1月1日から2015年12月31日の6年間に施行された、原発性肺癌に対して化学放射線治療、放射線治療、分子標的治療などの治療を行った後に再発した患者さんの中で、その再発巣に対して手術を行った患者さんのデータを集計して、呼吸器外科学会で集積、解析する予定です。

## 〔研究機関名〕

日本呼吸器外科学会、群馬大学医学部附属病院 外科診療センター 呼吸器外科

帝京大学外科学講座

## 〔情報の取り扱い〕

情報は匿名化したうえで呼吸器外科学会に提出されます。すべての情報は学会の解析センターにおいて分析され、個人が同定されないような形で公表されます。

## 〔その他〕

謝金等は発生しません

